

フレーベルに就いて

(フレーベル會第十七回總會に於ける講演)

東京高等師範學校教授 大瀬 甚 太郎

一、序 言

私は師範教育といふことには關係して居りま
すけれども、幼兒の教育といふことに就いては直
接に關係致しませんので、餘り申上げるとも御
座いせん。然しこれまでに教育者の傳記に就い
て多少取調べましたことから、今日はフレーベル
の傳に就いて少しく申述べ度いと思ふのでありま
す。

然し皆様は既にフレーベルの殘して行つた事業
に關係をせらるゝ方が、若しくは其れに興味を感
じて居らるゝ方々で御座いますから、フレーベル
とはどういふ人であつたかといふことは十分御判
りになつて居らるゝことと思ひますし、其れ以上

に出て別に珍らしい事を申上げやうもありません、且つ既に史上の人物の傳記である以上は、それを自分勝手に考へ出したり勝手に作りかへたりするといふことは許されないので、たい幾分、見方を新しくして考へて見るといふ外にはないのであります。

二、不遇の人

フレーベルは生存中に於いては、いろ／＼に評判された人であります。或る人々からは教育上の天才であるといふ稱を受けて居るかと思へば、一方には何も知らぬ、危険な人物であると云ふやうな批評が盛んに傳へられて居たのであります。そして、どちらかと云へば、上の人からは餘り善く

云はれなかつたので、その爲めに絶えず不遇な道を歩んで居たのです。然し其の残して行つた事業及び思想は、今日の思想に接近して居る點が非常に多いのであります。今日の新しい企であるとか、新しい思想であるとか云はれて居る事柄の多くは、フレーベルの残して行つたもの、中に含まれて居るものと云つていいのであります。

天才と云ふものは、周囲の感化によらず、自分で自分の行くべき道を發見し、開拓して行くものであると云はれて居りますが、フレーベルに就いてこれを見ますと、勿論、其の天才による處も多いのであるけれども、一方に其の境遇が、いろいろな發達の助をなして居るのであります。

三、少年時代

フレーベルは幼少な時分から、自然を愛する情が非常に深かつたのです。もと／＼フレーベルの生れましたチュリンゲンと云ふ地は、獨逸の中で

最も風景に富んだ處でした。フレーベルが自然を愛する心の深い處へ、自然の風景がよかつたのですから、自然を愛する心を益々助長せしめたのであります。

又一方に於いて、家庭の事情がフレーベルの自然に對する愛慕を強からしめたのであります。彼は生後九ヶ月にして母を失ひ、其の後四才の時に繼母が來ましたけれども、餘りフレーベルを愛せなかつた爲めに、家庭の愉快といふことは殆んど味ふことが出来なかつたのであります。其の悲しみを補はんが爲めに、自然を愛したといふことも、フレーベルを考へる上に大切な事柄であります。然し自然を愛して居たといふことは、獨りフレーベルの異とする處ではありません。普通の子供にも能く見る處であります。たゞ茲に注意すべき點は、普通の子供は何か珍らしいものに接しますと自分を忘れて其れを追ひ求めて行くといふのが

常でありますのに、フレーベルはこれと非常に趣きを異にして居たのであります。幼にして母を失ひ、いろ／＼な風波に遇つて來ました處から、無邪氣といふことが極めて少なかつたのであります。子供らしい處が失はれて居たのです。年の割にませて居て、常に何かを考へて居るやうになつて居たのであります。殊に自己の内心といふことに考へを及ぼして居たのです。

一般に子供といふものは、或る事に悲しみを持つて居ましても、それが何の爲めに悲しいのかといふことに氣をつけないものと思はれます。然るにフレーベルはこれがあつたのです。今、自分の持つて居る悲しみは、何の爲めの悲しみか、何の爲めに悲しいのかといふやうな、自己の内心にまでも立ち入つて考へて居たのであります。さういふ風な性情でありましたので、遊んで居る中にも、自己内心の總をさらけ出して、無邪氣に遊んで居

るといふ處がなく、何かを隠して居た。さういふ事で父は學問のある人でしたけれども、遂にフレーベルを了解するに至らず、極めて冷淡に取扱はれて居たのであります。早くに母を失ひ、殘つて居る父とは、また冷淡な間柄であつたといふことは、恰度兩親を失つてしまつたと同じい譯であつたのです。フレーベルが總の事柄に考へを用ゐて居たといふことは、さういふ境遇から養はれたものであります。

四、少年時代の思想

さういふ境遇でありました爲めに、自然界に對しても單に自然の風景を追ひ求めて行くといふだけではなく、其の中に何かを考へて居たのであります。其の結果、遂に自然界の諸現象は、外形に於いて種々様々であるけれども、然しめちや／＼のものではない、ある點に於いて一致して居るものである云ふことまでも考へるやうになつて來ま

した。フレーベル自身の云ふ處によりますと、十歳前後に於いて、既にさういふ事を考へて居たのであります。

又、一方に於いて、自分の内心を考へる結果として、人間の心には、いろ／＼なことが起る、悲しいことも、楽しいことも、苦しい事も起つて來るけれども、然しさういふ様々な事柄が當然歸着する一の點があるのではなからうか、といふことを漠然と考へ、そして其の一の歸着點に向つて努力することが、人間の最も高尚な目的ではあるまいかと云ふやうな考へを持つて來たのであります。そして自然界の諸現象を明瞭にして、其の歸着する點を明にするといふこと、自分の内心の状態を極めて、其の歸着する一點を十分明にして行かしようとする慾望が生じて來たのであります。

この二つの考へが、フレーベルの全生涯を通じて残つて居るのである。又、彼れの總の努力はこの

二つの目的の爲めであつたと云つてもいいので、この二つの希望があつた爲めに、様々な仕事をし

五、青年時代

青年時代のフレーベルは非常に氣の移り變りの早い性質を有つて居たと言はれて居ります。然しこれも、要するに前に述べた二つの目的が然らした結果に外ならないのであります。

十八才の時に、彼れはイェナ大學に入つて、自然科學を研究し、或は土地の測量、或は園藝、或は建築といふやうに、常に其の仕事を変へて居たのであります。其の頃に一番上の兄がフレーベルに對して、さう職業ばかり變へて居てはいかぬと云つて注意を與へました。其れに對するフレーベルの答へに「私は自分の内心を完全にする爲めに努力する。其の努力の中に自分を發見することが出來ます。」と云つて居ります。

第二番目の兄は、フレーベルを了解して居たので、フレーベルが放浪生活をして居る際には、常に奨勵の言葉を與へて居たのであります。その中の一に「常に自己に忠實に、且つ斷乎として自己内心の命に従へ。男子は自己の目的の爲めに奮闘するものでなければならぬ。男子らしく進め、汝の爲めに生ずる總の迫害と戦へ。而して落膽する勿れ、何時かは彼岸に達するであらう。」と云はれて居たのです。又、フレーベルが教育家になる少し前のことで、フランクフルトといふ處へ建築をしに行かうとした時に、友人へ出した手紙に「運命は君には忽ち一家を與へ、且つ愛すべき妻を與へた、然し同じ其の運命は我に對しては、何時までも我れを追ひまはして居る。然し我が精神界に對して自分を知らむが爲めに、さういふ運命を與へてくれたとも云ひ得る。君は人にバンを與へむが爲めに働き、我れは人に彼れ等自分を與へる爲

めに働く。」と云つて居るのであります。人に彼れ等自分を與へると云ふことは、己れを知り、己れを明にして、己れと矛盾せぬやうな生活に入らせるといふことであります。

六、教育家となれる動機

斯の如く、様々な職業に従事しましても、一つとして自分の満足を其の中に見出すことが出来なかつたフレーベルが、フランクフルトへ來て、其の地の模範學校長に面會して、いろいろな話をいたしますと、學校長はフレーベルに、お前は教師になる考へはないか、教師になるならば直ぐに此の學校へ入れて、教職を與へやうと云はれたので、フレーベルは遂に其の學校で教鞭をとることになつたのであります。

フレーベルは此の時に生れて初めて教室に入ることになつたのであります。然しフレーベルは、この仕事か、これまで幾年の間、常に自分の求め

て居た仕事のやうに感じられたのであります。フ
レーベルの受持つた兒童は九才から十一才までの
生徒でありましたが、其の教場に入つたときは、
非常なる愉快を感じたのであります。久しい間自
分の失つて居たものを今發見したやうに感じられ
たのであります。當時(一八〇五年)に送つた兄へ
の手紙に「私は初めて教師の職についたのである
けれども、然しそれが少しも新しいもの、やうに
思はれない。既に永い間其の職に就いて居たもの
、やうに、又この職の外には何も求めて居なかつ
たやうに思はれます。然し教師として此の學校に
入らうとは夢にも思はないことでもあります。私の
受持つ時間、如何に愉快に過ぎる、かは想像が
出ない位であります。私は總の子供を愛し、子供
と共に遊ぶ時間を待つて居る位であります。」と云
ふことを書いて居ります。

詰りフレーベルは自分を完全にすることを考へて

居た、其の爲めにどの職にも安心することが出来
なかつた。最後に人を高尚にする教育の職に就い
て、初めて自己の安定を見出したのであります。
人を高尚にするといふことは即ち自己を高尚にす
るといふことに外ならないのであります。

七、ベスタロツチの感化

フレーベルが教職についてからは、主としてベ
スタロツチの感化を受けて居ります。教育上の高
尚な思想はベスタロツチに負ふものであります。
フレーベルは教師になつてから二週間程の休暇を
利用して、スイツツルへ行き、ベスタロツチに就
て教育上の問題を研究しました。其の別るゝに際
してベスタロツチはフレーベルの手帳に「人と云
ふものは、非常にはげしい燃ゆるやうな思想と、火
のやうな熱心とを以つて自分の道を開け。而して
其の道を以つて自己を完全にするには黙つて働
け。」と書いて贈つたのであります。

その後三年程後にフレーベルはフランクフルトの學校を辭して、ホルツハウゼン家の三人の子供を預つて再びベスタロツチの元へ行つたのであります。今度は久しく永くベスタロツチの許に止つて居りました。フレーベルは人の精神といふことに考へを及ぼして居た上に、ベスタロツチに就いて研究した事柄が、益々其の根底を送り上げて來たのであります。

フレーベルはベスタロツチの處に居る間に、既に遊戯の價値に就いて考へを及ぼして居たのであります。そしてベスタロツチの學校の特色の源は其の點にあるといふことを考へて居りました。かういふ風にフレーベルは教育上の天才を持つて居た人であることは勿論でありますが、然し一方に於いて周圍の感化とベスタロツチの感化とに與る點が多いのであります。

八、フレーベルの特質

然しながら、フレーベルをして大教育家たらしめたことは、フレーベルの特に有して居た性質によるものであります。其の性質を次のやうに云ひ現すことが出来やうと思ひます。

一、フレーベルは常に愛情に強い人でありました。人類に對する愛情ばかりではなく、個々の人に對する愛情にも富んで居たのであります。早く母を失ひ冷淡な家庭に育ちましたけれども愛情と云ふものには極めて豊富な性質を有つて居たのであります。冷淡なる兄に對しても、又、繼母の子供に對しても、決してこれを疎するといふやうな事がなかつた。兄の逝くなられた後には、其の子供を引き取つて、自ら其の教育に力を盡くし、模範家庭を造りこれと共に他の子供を預つて教育をするといふ程に、人に對する愛情に富んで居たのであります。

二、常に理想を追ひ求むる性質でありました。

これは前の御話で略盡して居やうと思ひますので、再び説明の要はありますまい。たい特に申上げて置き度いのは、其の理想といふ内には、外面の名譽であるとか、物質上の利益であるとかいふやうなものが、少しも混じつては居ないと云ふこととであります。初めには自分を完全にするといふこと、後には、どうすればこれが出来るか、それには人を完全にするといふこととであると考へて居たのであります。

三、フレーベルは自分の良いと思ふ事は、どこまでも遂行するといふ性質の人であります。彼れがいろ／＼な職に従事したといふことも要するにこの性質があつた爲めであります。又、教育者になつて人を完全にするといふやうになつてからも、常に其の一の目的の爲めに全努力を捧げて居たのであります。此の考へが戦場にある間も、教壇にある間も、また如何なる迫害にあつても、常

に彼れの心に燃えて居たのであります。

フレーベルは千八百十一年に、自然科學の研究を目的として、再び大學に入つたのであります。すると恰度ナポレオン一世の戦役が起りましたので、フレーベルは志願兵として戦地に行つたのであります。其の間に於いても彼れは決して教育といふことを忘れなかつたのです。そして戦友の間に誰れか自分を信じ得る人がなからうかと探し求めて漸くにしてランゲタールとミッテンドルフの二人を得ました。この二人は後の仕事に深い關係を以つて居るので、殊にミッテンドルフはフレーベルを深く了解して、死ぬまでもフレーベルを助けた人であります。戦役から歸つて來ましてから、其の二人と共に、兄の子供や其の他に六十名許りの子供を預つて、大きな模範家庭を造つて、子供の教育に努力して居たのであります。

九、フレーベルの事業と其の迫害

このやうに、根本からフレーベルを了解する人もないではなかつたけれども、それは極めて小數な人でありまして、殊に上方の人は多くフレーベルを誤解をして居たのであります。其の爲めに折角造つた模範家庭も、幾ばくもなく外部の迫害の爲めに殆んど解散の運命に逢ふたのであります。フレーベルは常に自然を説き、自由を稱へて居た爲めに、又外面の事には餘り注意せない性質であつた爲めに、フレーベルの許に居る子供までがこれを真似て、或は頭髪を長くするといふやうなことが盛んに行はれました。その爲めに、時の政府は、フレーベルを危険なる人物である。さういふ集團は解散を命じた方がいと云ふやうに疑はれて來たのであります。これはフレーベルにとつて非常なる打撃でありまして、遂には僅に五名の生徒を餘すに至つたのであります。其の爲めフレーベルが其の家庭に關係して居ては益々迫害が

大になると云ふ處から、表面はバロツプといふ人に譲る事にして、自分は内部に隠れて居たのであります。然し彼れは、さういふ外部の迫害に挫折するやうな人ではなく、反つて力を倍にして、これよりもつと大きな計畫を以つて、大なる學校を建てやうと計つたのであります。そして學校は少くとも四種建てなければならぬ。其の一は父母のない三才から七才頃までの子供を養育する場所、二は普通人民の教育所、三には工業等の専門的學校、四には高等學術の豫備學校でありまして、この四種の學校が完成すれば、略完全な教育が得らるゝであらうと云ふ考へで、其の當時、教育上力を盡くして居たマイニンゲン侯の保護に依つて其の理想を實現する事になつて居たのであるが、これも他の人の妨害の爲めに果すことが出来なかつたのであります。

斯の如く、様々な迫害に遇つた爲めに、フレー

ベルは自己の理想を實現するには獨逸では駄目であると考え、遂にスイツツルに行つたのであります。何故スイツツルを選んだかと云へば、一は自分の知己もあり、二には自分の非常に尊敬して居るペスタロツチの後を慕ふといふことは愉快であるといふ考へからであります。

十、フレーベルの教育思想

スイツツルから再び故國へ歸つて來ましたのは、千八百三十六年の頃で、其の頃は、もう餘程齡をとつて居たのであります。普通の人ならば、も早や子供などは、うるさいといふやうな年輩になつてフレーベルはこれから最も幼少な子供の教育を初めやうと考へたのであります。そして、子供は外面から助けをするよりは、内心から發達せしめなければならぬ。而も兒童の教育は、學校以外の幼少な子供から初めなければならぬ。又經驗によつて見ても、家庭がよくないと學校教育がよくない

いと云ふ事を覺つて、幼児をよくするといふことが先づ急務であると考へたのであります。而も獨逸では子供を預る場所がない。それでは駄目である。教育をして神の道に一致する方法に於いて、子供を導くといふ場所がなければならぬと云ふ處から、遂に千八百三十七年に其の場所を建設したのであります。

以上申述べたやうに、フレーベルは飽くまで教育者としての天才を有つて居た人で、深く學問をした人ではありませんけれども、非常に進んだ思想を持つて居たのであります。故に今日の教育思想と餘程接近した處があり、従つて其の方法に至つても今日の方法に一致して居る處も少くはないのであります。初めて教師の職に就いた當時に於いても、教育は自然的に、近い處からだん／＼と遠い處へ進んで行くべきものであるといふ考へを持つて居ました。殊に地理に於いて最も巧みに、

其の理想を實現して行つたのであります。郷土科の如きもフレーベルによつて初めて行はれたものです。又、子供を出來るだけ戸外に遊ばしめて直接に自然界の影響を受けしむるやうに努めて居たのです。課業にしても、可成手でする仕事を與へ、或は庭を作り、草花を植ゑ、其れに咲いた花を父母に贈ることを樂しむといふやうな方面に力を盡くしたのです。其の當時にフレーベルの考へたのには、人間の生活を進めるには自然生活を保護して行くことが、最もよい手段である。又子供が花を親や教師に贈のは、子供の感謝を示す最もよい方法である。花を愛する子供は悪い人にはならない、花を愛する子供は自然、愛情、感謝といふやうなことを知り、天にある父を感謝するやうになると考へて居たのであります。この點はルソウの説に接近して居るのであります。別にルソウの書を讀んだといふ譯ではありませぬけれど

も、偶然の暗合とも云ひ得やうと思ひます。

又、カイルハウに於いて家庭を作つて居た時には、子供にいろ／＼な労働をなさしめて居ました。これは今日の作業主義と云はれ居る教育に外ならないのであります。人民の教育所を建てた時にも、普通の教育を成るべく制限して、網物細工であるとか園藝や手工などを多く行はしめて、其の残り時間を普通の教育に當て、始たのであります。フレーベルの考へでは、作業には少くとも二つの特長がある。それは、

一、直接に教授の材料を造ることが出來るといふこと。

二、造るといふことを好む精神を養成し、且つ造つたものに説明を與へられたいといふ希望を生せしめるといふことであります。

フレーベルの考へでは、人間は物を造るといふことを本體として居るもので、其の點が人の人た

る道であるかと考へて居ました。これが今日の所謂
作業主義と同一であります。

一一、フレーベルとペスタロッチ

最後に、フレーベルとペスタロッチとを比較す
れば、どういふ事柄が発見されて來るかといふこ
とを申上げて此の講演を了り度いと思ひます。

一、フレーベルはペスタロッチを非常に尊敬し
て居た爲めに、其の説も餘程とり入れて居たとい
ふことは事實であります。然し根本の性格に於い
ても、フレーベルとペスタロッチとは非常に似た
處があつたやうに思はれます。蓋に其の思想ばか
りではなく、其の境遇、其の性質までも等しくて
居たのであります。ペスタロッチは幼にして父を
失ひ、フレーベルは九ヶ月にして母を失ひ、又其
の生活も共に田園生活から始めて居ります。外貌
までが非常によく似逢つて居る。風彩の上らない
點、飾る事を考へない點の如きもそれでありませ

その爲めにペスタロッチは殆んど乞食のやうに云
はれ、フレーベルも、リーベンスタインの學校で
子供と遊んで居る時などは、よく、子供好きの馬
鹿老爺と云はれて居たのであります。

二、二人は共に人類の爲めに盡した點が一致し
た居るのであります。而も其の間に些の利益をも
考へない、寧ろ自己を犠牲にしてまでも其の事業
の爲めに盡くして居たのであります。思想上に頭
を使つて居る人には、よくある事ですが、二人は
共に經濟上の實地に就いては、極めて放任的であ
つて、事業の爲めならば費用をかまはずに仕始め
るといふ状態であつたのです。其の爲めに二人と
も財政の方面では非常に困難をして居たのであり
ます。

三、二人は共に、人の人たる點に深い考へを有
ち、鋭敏なる觀察を有して居たのであります。然
し個々の人物に對しては、二人ともに往々見誤り

があつた。殊にフレーベルは、婦人や子供に對しては、非常に強い感化力を持つて居ましたので、一度フレーベルに接した子供は決して先生を忘れなかつたといふ位であつたけれども、男子には屢々自分の説を無條件に信ぜさせやうとする態度が多かつた爲めに、反つて種々の惡感を惹き起さしめて居たのであります。故にフレーベルを根柢から信じて居た人は死ぬまでも彼れの爲めに盡して居ましたが他の友人は多く惡意を有つて居たので、ベスタロツチもこれと似た性質があつたので、自己の信ずる直觀教授をナポレオン一世に對して、頭から説きつけたと云ふことが傳へられて居ります。

四、教育上の思想に於いても、非常に似た處がある。然し全然同じ點ばかりではありません。

ベスタロツチは親の教育に重きを置き、殊に母親の教育を餘程大切に考へて居たので、室内の教

育は子供に大なる感化があるもので、初等教育は母の室でしたいとまで考へて居たのであります。

フレーベルは室内教育の價値を認めて居ましたけれども、其の他に社會や自然の感化が大切で母の室だけでは完全な教育は行はれないといふやうに考へて居たのです。

ベスタロツチは直觀と云ふことに重きを置き、感覺から初めて思想に入らなければならぬと考へ、フレーベルは自分の力による發展といふことに重きを置いて居たのです。ベスタロツチの説を研究して居る際にも、どうも傳へると云ふ方の教授が多い、もう少し製作するといふ事を進めなければならぬ。手の仕事をもつと大切であると考へて居たので、その考へから、自分で幼稚園を作つた時は、いろ／＼な遊戯を發見したのであります。これ等はフレーベルがベスタロツチよりも、今日の新思想に近づいた人であると云ひ得るのであり

ます。

然しなが、二人ともに、自分の思想を論理的に明瞭に發表するといふ處までは至らなかつたので、たゞ漠然とさういふ思想に氣がついて居たと云ふに過ぎなかつたのであります。今日の人はこ

フレーベル主義と婦人

(フレーベル會第十七回總會ニ於ケル講演大意)

倉 橋 惣 三

總て世界の大きな出來事の裏面には、必ず婦人が潜んでゐると、屢々云はれて居ります。そして其の實例としては例の平家の滅亡、源氏の衰亡、或は佛蘭西革命に於ける王朝の衰微であるとかいふやうな事件を惹き來つて。これを説明しやうとするのであります。若しかういふ意味許りで、婦人が世界の大事件に與つて居るとすれば、婦人程世

れに明瞭なる心理學上の根據を與へる事に努力して居るのであります。今日の教育研究が益々進んで行くと共に、フレーベルとペスタロツチの思想も益々進められて行くこと、考へるのであります。(文責記者)

に厄介なものではなからうと思ひます、然しながら、轉じて、もつと明るい、愉快な眼を以つて歴史を見ましたならば、世に及ぼしてゐる婦人の力は、決してさういふ暗黒な事柄のみではなく、非常に尊重すべき、愉快な事件が澤山に見出されて來るのであります。殊にフレーベルの主義及び其の事業に關係した人々の歴史及び現在